

# 宇和島 トレイルラン 愛好団体が初開催

読もう!



宇和島市の東にそびえる鬼が城山系で10日、初のトレイルランニングレース「鬼が城ピークストレイル」があった。計約53キロ、累積標高約3510メートルのコースで、県内や隣県を中心に集まった105人の健脚自慢が春の山を駆け抜けた。

# 走つて知つて

# 雄大な鬼が城

## 総距離53キロ 105人健脚競う



眺めの良い大久保山の頂上付近を走る選手

同市や市出身の愛好家でつくった宇和島トレイルランニング協会が、鬼が城山系の知名度を上げ、地域の活性化につながるようとしていた。当初は2020年の開催を計画していたが、新型コロナウイルスの影響で延期していた。コースは同市和霊町の丸山公園を発着点に、鬼が城山系の尾根付近の登山道を



坂道を駆け降りるトレイルランニングの選手

周回するよう設定。午前6時のスタートから13時間という制限の下、参加者は汗ばみ、三本杭や最高峰の高月山のほか、滑床溪谷などを巡った。

周囲の山や宇和海がぐるりと見渡せる大久保山の頂上では、レース終盤を迎えた選手が息を切らしながら到達。「完全燃焼」と書かれた横断幕のそばでスタッフの声援を受けながら、下り坂を慎重に駆け降りていた。

完走した松山市空港通2丁目の会社員田村一明さん(49)は「コースが整備されていて良かった」と達成感たっぷり。黄色のTシャツに青のパンツというウクライナ国旗のカラーを選び「平和を祈りながら走りました」と話していた。(阪和舞)